



さくら

題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 小久保 隆
編集 広報委員会
発行日 2018年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「青い海と空の世界」
弥生小 4年 佐山袖寿妃 作

目次

P	式典・パレード	2
R	北千住駅頭キャンペーン	3
週	委員会・部会報告	4
間	各種表彰受賞者祝賀会	5
	「子どもたちはいま」シリーズ	6
	町会自治会「地域を訪ねて」	7
	社協新旧役員挨拶	8
	編集後記	

ご挨拶

福祉部長 中村明慶



4月1日付で、福祉部長の職を拝任いたしました。民生・児童委員の皆様から、折にふれて激励の言葉をいただいております。一日も早く期待に応えられるよう、誠心誠意、職務に励みたいと存じます。

福祉部の所管する事業は、ひとり親家庭、障がい者、高齢者、生活困窮者と多岐にわたり、どれも区民生活に直結する無くてはならない行政サービスです。その中でも急速に進展する少子・超高齢社会を支えていくため、その土台となる「地域包括ケアシステム」の構築は、何よりも優先して取り組まなければならない課題と考えております。

区民が安心して暮らし続けられる地域づくりに全力を注いでまいりますので、今後とも皆様からのご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

変わるもの変わらないもの

待機児対策室長 川口真澄(前福祉部長)



朝の通勤途中で、若いお父さんが、前抱っこでお子さんと歩いている姿を見かけます。朝の保育園は、お父さんなのね。お迎えはお母さん？ 20数年前の私の子育て時代とは変わったなど。でも、すれ違う親子を微笑ましく見えています。

一方で、子どもの健やかな願いは、時代が変わっても変わらず、良き隣人として地域の皆様に寄り添い、相談相手となり、行政へのつなぎ役である民生・児童委員の皆様は、民生委員制度が100年過ぎても変わらぬものでございます。

生活スタイルが多様化・複雑化する今日、自分を律しお気持ち溢れる素敵の皆様が足立区で活躍していること。時を同じくできたことに感謝しております。

皆様の益々のご活躍とご発展をお祈りいたします。ありがとうございました。



—— 式典 ——

5月12日



区歌斉唱に始まり、民生・児童委員信条の朗読、横山堂侑実行委員長の開会あいさつ、主催者代表として小久保隆連合会長が、北千住駅頭でのPR活動を行ってくださった近藤区長へお礼を述べられました。

来賓として、近藤区長から民生・児童委員の活動に対して労いのお言葉をいただきました。引き続き、かねだ正足立区議会議長、有馬康二足立区町会・自治会

連合会会長のご挨拶があり、只野裕一相馬市社会福祉協議会会長から相馬市の復興について「ハード面は全て終わったが、精神的なソフト面の充実を図っていく」とのお話がありました。

式典に先立ち、「足立区立花畑西小学校金管バンド」のみなさまに、同校の関谷先生の指揮で5曲演奏していただきました。今年の1月に行われた「東京都小学校アンサンブルコンテスト」では、金賞を2年続けて受賞されたそうです。



▲アトラクション 花畑西小学校金管バンド

—— さくら感謝状贈呈式 ——

リハーサルでは担当者の説明を聞き、張りつめていた気持ちが緩んでいきましたが、緊張の色を隠せないまま、生徒さんたちは贈呈式に臨みました。

庁舎ホールの400人を超える来場者と、壇上の区長、教育長、小学校校長会会長代理、中学校校長会会長が見守るなか、小学生9名の絵画と中学生5名の俳句がスクリーンに映し出され紹介されると、客席から称賛の声が上がりました。

「一日民生・児童委員」のたすきをかけた近藤区長から感謝状を、小久保連合会長から記念品が贈呈されました。広報委員長から広報紙の協力に対しお礼の言葉がありました。

記念撮影では、近藤区長が着席した生徒一人ひとりに、姿勢を整えるよう気配りをしてくださいました。花飾りをつけたミンジーとビュー坊が登場し写真に加わりました。



▶中学生の皆さん



◀小学生の皆さん

都民連 PR パレード



5月13日(日)東京の民生委員制度誕生100周年記念パレードが「みんなでつくろう 地域のつながり 支え合い」のスローガンのもと行われました。都内各地区より1,321名の民生・児童委員が集まり、一日民生委員・児童委員として参加された小池都知事が、寺田都民連会長と先頭に立ち行進しました。

天気予報では午後から雨降りとはっきりしない空模様の中、足立区の眞鍋民生係長の「皆さんの鼻息で雨雲を吹き飛ばしましょう」という掛け声が天に届いたのか、笑顔で団扇を振る民生・児童委員の鼻息に雨雲が負けたのか、雨に降られることなくパレードは終了しました。

今年も5/12の「民生委員児童委員の日」にあわせ、5/7～12の1週間PR事業を行いました。
1週間で約9,600人の方にご来場いただきました。

(広報委員会 記)



5月12日

北千住駅頭キャンペーン (平成30年5月12日10時から)



北千住駅西口で民生・児童委員のPR活動が行われました。東京の民生委員制度誕生から、今年は100周年の記念の年です。この活動には「一日民生・児童委員」として委嘱を受けた近藤やよい区長や民生委員・児童委員のイメージキャラクター「ミンジー」も参加し、30分程の活動で1000人近くの方に啓発物を配布しました。多くの人に活動を紹介する良い機会になったと思います。



キッズコーナー

木工くるまづくり、おはじきゲーム、ぬり絵、折り紙、スマートボール等があり、足立シニアクラブによる昔遊びのコーナーも設けられていました。親子で楽しむくるまづくりでは、木工で作った車にペットボトルキャップのタイヤを取り付け、好きな色を塗って完成した車をコースで走らせていました。



消防コーナー

遊園地さながらのミニ消防車、救急車を運転することができました。消防服を着てヘルメットをかぶった子どもさんは、消防ホースを持ってカメラにおさまっていました。

福祉作業所販売

生活介護、障がい者福祉に携わる八カ所の福祉作業所が参加し、特色のあるパン、お菓子、小物雑貨と多彩な花を並べて販売していました。来場者に「おいしいよ」と元気に声を掛けている姿が印象的でした。好評のうちに販売は終了しました。

相談コーナー

5月7日から13日まで民生・児童委員による相談コーナーが開設され、多くの方が来場されました。おもに生活上の困りごとや話し相手がほしいといったご相談があり、懇切・丁寧に対応させていただきました。



▲ありがとうございました PR実行委員の皆さん (敬称略)

連合会長 小久保 隆
 実行委員長 横山 堂侑
 副実行委員長 森 春枝・浅古 有文
 特別相談役 市村 智
 相談役 野辺 陽子・山本 祥一・小宮俊一郎

為田登志子・古屋 恵子・数山あかね・松本はな子・富澤 久男・染谷 和恵・藤田とみ子・小倉 一雄・内藤 久子・遊馬 正子・榎本のり子・海野 正子・西村 良夫・早川 元康・風見くみ子・木村 克博・矢萩 早苗・後藤 芳子・瀬山 春美・吉澤たち子・下岡 博子・花木マチ子・横田 麻子・藤田万里子・堀内すみ子・清水 康弘・矢澤 敏臣





委員会・部会活動報告

5月12日



【子育て支援研究部会】鈴木淳部会長

『地域に出ていくことができない親へ、支援できることを考える』をテーマに、1年目は「足立区の保育・子育て支援の基本を知る」に取り組み、行政サービスの基礎知識・児童扶養手当支給決定現況調査の疑問とひとり親世帯への支援・要保護児童等への対応について研究しました。



【児童福祉研究部会】小泉博部会長

『子どもの貧困問題を知る』をテーマに、すべての子どもや家庭を対象とした施策から、子ども虐待などの特別なニーズを持つ子どもや家庭への対応まで幅広く学び、得た知識や経験を活かせるよう努めていきます。



【障がい福祉研究部会】羽住圭規部会長

障がいを持った方々を受け入れている「障がい福祉センターあしすと」「竹の塚あかしあのか」「竹の塚福祉園」「竹の塚ひまわり園」を訪問。施設の機能・役割について伺い、入所・通所者の活動を拝見し、従事する支援員との関わり等を知り、民生・児童委員に何ができるか考える良い機会になりました。



【生活福祉研究部会】高波国男部会長

生活保護制度・生活福祉資金貸付制度・生活困窮者自立支援法と制度について学びました。更生施設「しのぼず荘」を訪問。生活困窮者・住所喪失者等が健康を回復し、社会復帰するための支援について講義を受けました。



【高齢者福祉研究部会】岩戸順子部会長

高齢者福祉の基礎と現実的具体的な問題についての見識を深めることで、相談者の立場をより理解し活動できるよう「福祉・介護の現状」「社会・介護等福祉人材の役割」「賢い老い支度」について講義を受けました。



【主任児童委員会】首藤広行委員長

『足立区の児童福祉の底辺を支える ～小さな声を大きな愛で～』をテーマに、いじめ・不登校・非行・虐待等の問題に直面している子ども達のため、各地域の民生・児童委員、行政機関と連携し早期に事態の改善を図るべく体制を構築していきます。



【広報委員会】鶴田晴久委員長

足立区民児協の活動を広くPRするため「民児協の行事や取り組み」「学校、町会・自治会などの地域活動」について広報誌「さくら」に記載紹介。小学生の絵画、中学生の俳句や短歌を掲載し、PR週間事業において感謝状を贈呈。平成29年度はダイジェスト版を含み4回発行。読みやすく、親しみやすさを目指しています。



【コーラス部】野間一夫部長

東京都民生児童委員連合会主催の「100周年記念合唱コンサート」での発表に向けて練習に取り組みました。今年7月で創部4周年を迎え、現在32名の部員で活動中です。社会福祉の増進に寄与するための具体策を検討実践していきたいです。



▲コーラス部 あだち 葦立コール『絆』



第29回足立区ボランティアまつり

5月13日（日）中島根小学校コーラス部のさわやかな歌声から始まりました。会場は早朝からたくさんの人で溢れ、体験コーナーや自主製作販売など各所で行列ができ大賑わいでした。お楽しみの抽選会では色々なところから歓声があがり、降り出した雨も忘れるほどとても盛り上がった1日となりました。



平成 29 年度 各種表彰受賞者祝賀会



平成 30 年 2 月 14 日浅草ビューホテルにおいて祝賀会が、近藤やよい区長、寺田晃弘都民連会長、宮崎十三足立区民生・児童委員 OB 懇話会会長はじめ、多くの来賓のご臨席を賜り開催されました。

国歌斉唱に始まり民生・児童委員信条朗読、小久保連合会長の主催者挨拶、近藤区長、かねだ区議会議長、寺田都民連会長、宮崎 OB 懇話会会長による来賓

挨拶、来賓紹介、主催者紹介と進み、表彰受賞者が各受賞毎に登壇し区長と一緒に記念撮影を行いました。

続いて、今年度在任 30 年を迎えられて「全国民生委員児童委員連合会功労者表彰」を受けられた 11 地区隈元千代子会長から、「平成元年に民生・児童委員になって 29 年、お仲間の皆さんの支えがあったのことに改めて感謝いたします。民生・児童委員の活動は決して華やかな活動とは言えず、地道な活動の積み重ねですが、本日のこの素晴らしい祝賀会を節目に、今一度気を引き締めて、任期まで精いっぱい務めさせていただければと願っております。」と、挨拶がありました。

その後、足立区民生・児童委員協議会から足立区へ寄付が贈呈され、乾杯歓談へと続きました。

*本誌前号記載名簿のとおり、113 名の方が各種表彰を受賞しました。

(6 地区 田中礼子 記)

第 22 回こころの健康フェスティバル

平成 30 年 3 月 3 日は、晴天に恵まれ「第 22 回こころの健康フェスティバル」を、過去最多の 2600 名ほどの来場者をお迎えし、無事盛況のうちに終えることができました。これもひとえに、後援団体・協賛団体・実行委員会の皆様のお陰であります。特に、民生・児童委員の皆様には、当日のバザーの開催準備から販売までの労を頂き、売上げ金までご寄付していただく等、物心両面にわたり、多大なるご支援をいただきまして、心より御礼感謝申し上げる次第であります。

さて、平成 8 年度より精神障がい者の社会参加を目的として始まった「こころの健康フェスティバル」は、第 8 回よりすべて民生・児童委員の皆様によるバザー開催・販売・売上げ金のご支援を賜っております。この 20 数年の間に、精神保健福祉・こころの病いに関する社会状況においても、精神障がい者の生活の場は「病院から地域支援体制」が整備され、また、治療薬の進歩により、早期発見・早期治療が将来の障がい予防へと繋がるようになりました。こころの健康は、すべての人に関わる問題であり、こころの変調に早く気づき、適切な対応のできる地域・普及・啓発活



▲バザー会場

動を「こころの健康フェスティバル」を通じて展開しております。その中で、民生・児童委員の皆様のご支援・ご協力は、今後ますますの地域社会の福祉向上に貢献されておりますことは明白な事実であり、民生・児童委員の皆様へ、心より深甚なる敬意を表しますとともに、ご協力に対しまして御礼を申し上げます。

感謝拜。

(こころの健康フェスティバル実行委員会 委員長 榎本安行 記)



足立区社会福祉協議会では子どもに遊びや交流の場を確保し、子どもたちの多様な居場所づくりを推進するため、ボランティアが運営する「Kids サロンあだち」（以下、サロン）を支援しています。現在、3カ所で開催され、そのうちのひとつは、食事を提供し「食」の大切さを伝えるサロンです。

そのサロンでは、主に大学生ボランティアが運営面を担い、学校給食で栄養士をしていたOGの方々（ボランティアグループ「スカラーママ」）が調理を担当します。午前中は、子どもたちが持ち寄った学校の宿

題等を大学生ボランティアがサポートします。その間、スカラーママの方々が昼食の準備を行います。昼食の食材は、民生・児童委員の小金井14地区会長の協力をいただき、地域の八百屋さん「元気畑竹の塚店」から無償で提供いただいています。また、前日に食材を調達するため、新鮮な食材をそのまま調理できるので子どもたちからは「美味しい」「おかわり」などの声が聞かれます。そして、食事の後は、その日使われた食材がどんな栄養となって、からだを作っていくかなど、ミニテストを交えて伝えていきます。全員が学び終えたあとは、大学生ボランティアが事前に用意した手作り工作を楽しんだり、会場内にある多様な楽器に手を触れ、奏でてみたりと最後は自由に遊びサロンが終わります。

このサロンの運営は、地域の方や大学生など多くの人達に支えられています。子どもたちの未来のために少しでも温かみを感じられる居場所づくりを目指して、これからもみんなで手を取り合って進めていきたいと思います。

（足立区社会福祉協議会地域福祉課 川畑彩 記）

ドキュメンタリー映画『^{とな}隣る人』が伝えるもの

—公開から7年を経て—

あなたは誰かの「隣る人」になれますか？

映画『隣る人』は、親と暮らせない子どもたちの最後の拠り所としての児童養護施設の「暮らし」を公開した映画です。そこには、子どもを育て本来の意味での「家庭」での子育てを旨とし、映画には、「どんなあなたも大好き」と伝える保育士さんはじめ、理想通りにはいかななくても、ただ子どもの周りをうろうろし、悩みながらも決して諦めず寄り添い続けるさまざまな大人たちが登場します。

プライバシーに配慮し、DVDにならないこの映画の上映会で出会ったのは、赤ちゃん連れでも一生懸命親にきてくれた若い母親たちの本音でした。「子どもの接し方が分からない」「（実の）親に相談したら、『あんた、何やってるの！』と責められるので、親にも話せない」…「母親でしょ」との圧力に押しつぶされそうになり、「母親だから」と全責任を負わねばと悩み、孤独な子育てに苦しむ母親たちの^{どうく}慟哭でした。

今や「責任」とは「自己責任」のこと。母親の責任

とは、「あんた一人の責任」と突き放される感覚なのです。^{ひるがえ}翻って、児童養護施設入所理由のほとんどが「虐待」。それも実の母親からの虐待であるといいます。愛情あふれるはずの家庭という閉鎖空間には、多くの虐待が隠れ、すぐに「虐待母を教育しろ」の声があがります。でももう一度考えてほしい。母親の精神的不安と孤独や経済的困窮という土壌を想像し、母親たちに十分な共感と寄り添いがあったでしょうか。

子どもばかりでなく、子どものまわりにいる大人たちにも心を寄せてくれる「隣る人」の存在が必要なのだと感じます。血縁であろうとなかろうと、誰でもいい。責めるのではなく、「どうしたのかな」と隣りの誰かに心を寄せ続けること。人の心も、人からの温かい眼差しがなければ壊れてしまいます。まさに〈民生委員児童委員信条〉の「隣人愛」ですね。

（『隣る人』企画 7地区 稲塚由美子 記）



シリーズ9 町会自治会「地域を訪ねて」 地下鉄8号線



第20回「地下鉄8号線整備促進大会」が、平成29年11月25日に国会議員、都議会議員、区議会議員、延伸予定地域の関係者をお招きし、足立区副区長および近隣住民約400人が参加し、区立中川小学校で開催されました。

この大会は、平成10年から毎年行っているもので、平成28年に国土交通省交通政策審議会答申第198号「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」において、概ね15年後の東京圏の目指すべき姿を実現する上で意義のある路線に位置付けられました。

この路線は、豊洲～住吉・押上～野田市（住吉～四ツ木間は半蔵門線を共有）の計画で、足立区東部地区住民としては、亀有～葛西用水親水路を經由し八潮へと繋がるよう要望しているところです。

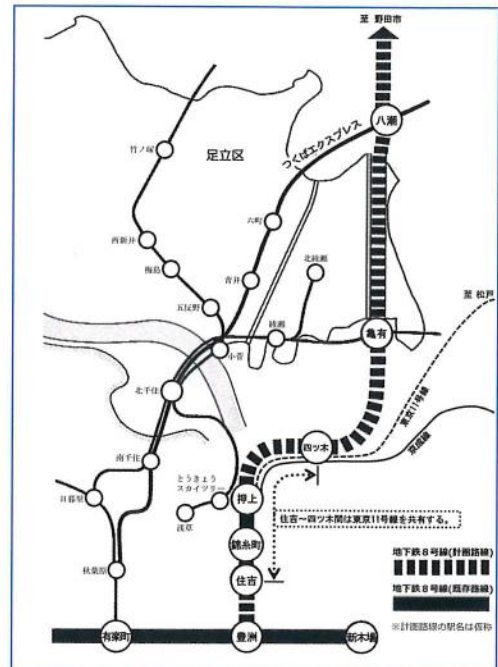
大会決議として、この整備は長い間の沿線地域住民の悲願であり、区画整理事業等でまちづくりが進み、

現在人口が増え続けています。延伸されれば、地域の更なる発展・活性化・交通利便性向上など、次世代への大きな財産となり、実現に向けた努力は、今を生きる我々の責務です。

災害時における新たな経路の確保、北千住への一極集中にならず、鉄道不便地域の解消などの有意性ととも、整備事業が大きな効果をもたらすことを確認しました。一方、国は東京8号線として足立区内延伸を明確に位置付けています。

足立区は地下鉄8号線の早期整備に向けて、地域と議会、行政が一丸となり、あらゆる力を集結し、最善を尽くすことを誓って決議されました。

(佐野地区 上野剛 記)



地下鉄8号線(有楽町線)概略図



ジュラシックハウス(タワー)
足立小 3年 進藤玲生

中学生短歌コーナー

魚沼で 野外炊飯 味噌作り

昔の人の 大変さ知る

一年一組 佐藤詩緒莉

魚沼で 田植え体験 大変だ

「今の時代は楽になったな」

一年一組 源 友愛

きれいだな いつもの水より すんだ色

入ってみると とても冷たい

一年一組 高橋 暖野

部屋の中 話し遊んで 笑顔の花咲き

協力しあった 仲間に感謝

一年二組 伊藤 結奈

※29年度の作品です。

足立区立栗島中学校



社会福祉協議会 新旧役員挨拶



常務理事
大高 秀明

産業経済部長から社会福祉協議会事務局に異動してまいりました。

中田社会福祉協議会会長を全力を挙げて補佐させて頂きながら、会員の皆様、民生・児童委員の皆様々に愛される事務局づくりに尽力していく所存ですので、何卒、宜しくご指導、ご鞭撻の程、お願い申し上げます。



前常務理事
青木 光夫

本年三月で社協常務理事を退任いたしました。

40年余の公務員生活の最後の2年間を民生・児童委員の皆様と地域福祉の仕事に携われたことを幸せに感じております。大変お世話になりました。

ありがとうございました。



「カラフルツリー」 足立小
4年與那嶺愛莉・2年武宮龍生・3年伊藤倫太郎



前事務局長
儘田 政弘

社協の事務局長として、2年間たいへん勉強をさせていただきました。

連合会長が宮崎氏から小久保氏へ変わり、制度100周年という大きな節目の時でした。民生・児童委員信条にある隣人愛の精神は、深く胸に刻まさせていただきます。

【追悼】 8地区 羽曾部光子 会長



昨年5月のPR週間のアトラクションでコーラス部として参加し、特設舞台では前列中

「こころの健康フェスティバル」が開催された3月3日、羽曾部光子8地区会長が逝ってしまわれました。ご自身の奏でお琴の調べとともに。

央で美しい歌声を披露してくださいましたのに。

その掲載記事で、コーラス部の名称が間違っていると「さくら」発行後にお叱りをいただいたことがありました。3月1日発行の46号の部会長紹介は「ふり仮名・二重かぎかっこ付」に校正いたしました。今回の記載は合格でしょうか？

合掌
(8地区 森葉子 記)

編集後記

今回の47号はカラー印刷ですが、広報紙「さくら」は通常カラー誌ではないため、カラーの絵画を加工して使用します。まず絵画を写真撮影してアプリを使って歪みを補正した後、白黒に加工します。絵画の表現を壊さず白黒にできるかいつも悩んでいます。

学校に依頼する時も、カラーの絵画を写真撮影後白黒に加工して使用するので、白黒使用を前提に作品を選んでいただくようお願いしています。作品の良さがそのまま伝わるよう、カラー誌の発行回数が増えるよう望むところです。

(10地区 渡邊進 記)

- 小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、
第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。
- 皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)。次号発行予定日 平成30年11月1日

広報委員会

委員長 鶴田晴久	副委員長 金子みどり	書記 山崎秀夫	会計 丸山まさ子	編集 田中礼子	レイアウト 齋藤祐子	櫻井春子	校正 森葉子	編集委員 吉田祐一	渡邊進	福原健	鈴木恒	江川和子	金宮代	鈴木恒	校正委員 星野明	松浦恵	上野剛	矢野敏	志賀博	足立由美	渡辺章子	小川玲子	益塚賢治	赤羽月子
-------------	---------------	------------	-------------	------------	---------------	------	-----------	--------------	-----	-----	-----	------	-----	-----	-------------	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------